

魔法のプロジェクト FY23 活動報告書

報告者氏名: 岡田 桂 所属: 高松支援学校 記録日: 2024年 2月 27日
キーワード: 重度重複障害 タイムラプス

【対象児の情報】

・学年 小学部6年

【障害の内容】

- ・重度重複障害がある。
- ・体の動きに制限がある。
- ・座位が難しい。
- ・普段はあまり発声は見られないが、不快なときに声を出したり、笑い声を出したりすることがある。

【困難の内容】

- ・実感もてる活動の設計のポイントが、支援者に理解されにくい。
- ・体調が不安定である。
- ・座位保持椅子に座ると、舌根沈下で SpO2 が低下したり、ベッドに仰向け姿勢になると、筋緊張が強くなったりする。
- ・音や歌に敏感で、緊張が強くなってしまうこともある。

【活動目的】

・当初のねらい

「Mさんの遊びの設計をしよう!」

やり取りの方法や遊び方を見付けることで、生活や人との関わりが豊かになってほしい。

- (1) Mさんのもつ力をはっきりとさせ、どのように関わるのがより適切であるかを検討する。
- (2) 保護者や友達と行うことができそうなやり取りや遊びを検討し、保護者に提案する。

・実施期間

2022年9月～2024年2月(2年間)

・実施者

岡田桂、佐野将大、倉敷小百合

・実施者と対象児の関係

岡田桂 週に1回、自宅で授業を実施している教師
佐野将大 校内の任意実践検討グループの代表、他学部に所属する教師
倉敷小百合 自立活動室 アセスメントについて研鑽している教師

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

I 事前の状況を把握するための観察と調査

(1) 目的 Mさんの状況を大まかに把握する

(2) 方法 観点を準備し、観察をしたり、情報を収集したりする

(3) 結果

○本児の状況

<姿勢> ベッドの上で仰向け姿勢かうつ伏せ姿勢で過ごすことが多い。

訪問学習では、座位保持椅子で40分、仰向け姿勢やうつ伏せ姿勢で60分程度学習することが多い。

姿勢変換が少し苦手で、不快な表出が出ることもある。

<声> 発作や緊張が強い時等に、声を出す。

たまに、歌や人の声に反応して、笑い声や「あー。」という声が出る。

<手> 手を自分の口を持っていくことはできず、操作的に動かすことも難しいが、随意的な動きが含まれるかもしれない動きが左手・左腕の動きに見られることがある。

<身体> ベッドで仰向け姿勢で過ごすときには、緊張が入りやすいような気がする。

車いすに乗っているときは、呼吸が不安定になりやすいような気がする。

手以外の動きを捉えづらい。

<耳> 歌や人の声に反応して表情を変えることができる。

少し距離のある小さな音にも反応している気がする。

<目> 目が合うような気がする。

目の前にいる人・物を目で追っているような気がするが、なぜそう感じたのか上手く言語化することは難しい。

・活動の具体的内容

I 本児の動きを見つける

(1) 目的 Mさんのもつ動きを確認する

(2) 方法 授業の様子をタイムラプス動画で撮影し、共有する。実践検討グループで確認し、Mさんの動きを記録する。

(3) 結果

表I タイムラプス動画から見えたMさんの動き

-
- ・目を動かす。
 - ・首が左右にゆらゆら揺れており、その動きに変化がある。
 - ・表情を変える。
 - ・口を動かす。 / ・舌を動かす。
 - ・左腕や左手を動かす。 / ・左手をぎゅっと握りこむ。
 - ・右手がまれにびくびく動く。 / ・左足がまれにびくびく動く。
-

(4) 考察

・首や足などこれまで気付いていなかった体の動きを見付けることができた。

・見つけた動きのなかでも、以下の2つは、遊びの設計に影響を与えそうであると考える。

① 手や腕の動きは、反射かもしれないが、意識して動かしているようにも感じる。

② 首を左右に動かして、目の前の人や物音に意識を向けているような気がする。

・①と②の動きに注目して観察すれば、得られるものがあると感じる。

2 左腕の動きの随意性について検討する

(1) 目的 左腕の動きは、反射なのか、それとも随意性が含まれているのか、について検討する。

(2) 方法 タイムラプス動画や iOAK を用いて左手の動きの観察を行う。動きが出ている場合には、その動きの解釈について実践グループで検討する。理学療法士の勤務経験のある教諭を加えた 4 名で観察した。

(3) 結果

① 訪問授業の様子を、タイムラプス撮影した動画の分析

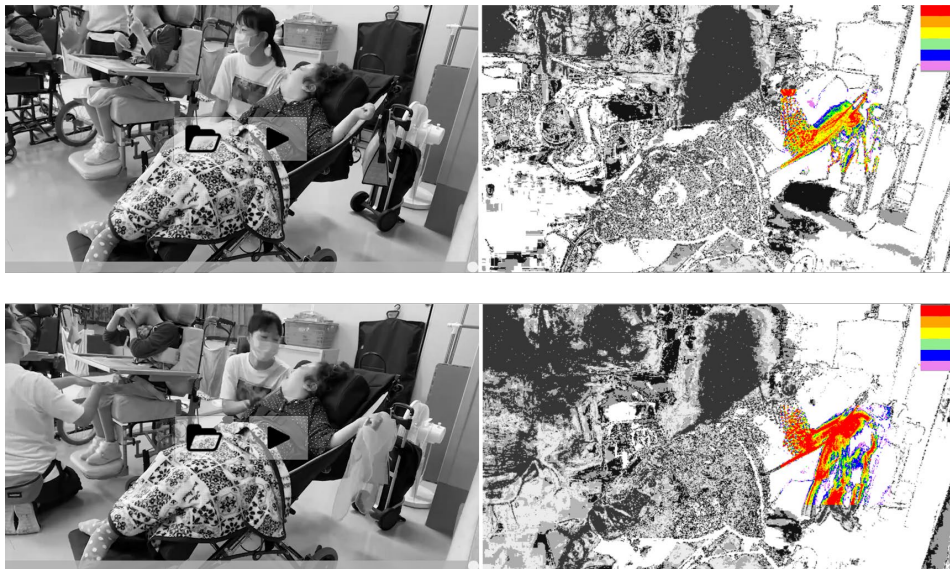
- ・左手や左腕はいつもよく動いている。
→聴覚刺激に対する首の動きから出る ATNR 反射に見える。
- ・活動が終わったところにすーっと力が抜けるように手が下がっていった。



写真1 活動の終わりに左手がすーっと抜けていく様子

② 左手にダンスで使うスカーフを持っている様子を撮影した動画の分析

- ・それぞれ3秒ずつにカットし、OAKCom を用いて比較してみた。
- ・体育の授業でダンス前とダンス中の様子である。(声掛け、接触、音の変化、固有覚の変化を含む)
- ・ダンス中には、左手の動きが増えているように見える。
→聴覚刺激から首の動きが出て、ATNR 反射が出ている可能性がある。
→左手で何かを持っていることによる固有覚に対する反応が混ざっている可能性がある。



上段…ビフォア(左手に何も持っていない) 下段…アフター(スカーフを持っている)

図1 ダンスで使うスカーフを持っている様子を撮影した動画をOAKcomを用いて比較したもの

(4) 考察

手の動きには、ATNR 反射も含まれると考えられる。活動の終わりに手の力が抜けているように見えるのは、活動中に入っていた緊張が抜けたのかもしれない。その理由は、終わりが分かったからかもしれないし、活動中に入っていた刺激が入らなくなったからかもしれない。スカーフを持った方の手が動いているのは、手の動きか首の動きの随意性のある動きが含まれる可能性もある。左手の動きは、今後も丁寧に観察していきたい。

3 首の動きの随意性について検討する

(1) 目的 支援者がMさんの右側に立つ、左側に立つ、の違いを感じている気がするので検討する。

(2) 方法 授業の様子をタイムラプスで記録する。普段通りの授業に、「教師の立ち位置を変えてみる」ということを加える。動画を、実践者と理学療法士の4名で確認する。

(3) 結果

① 座位保持椅子に座っているMさんに、左右から関わっているときの様子を撮影した動画の分析

- ・首はいつも左右にゆらゆら揺れていて、左右にいる先生に対してゆらゆらが変化している。(一致度4/4)

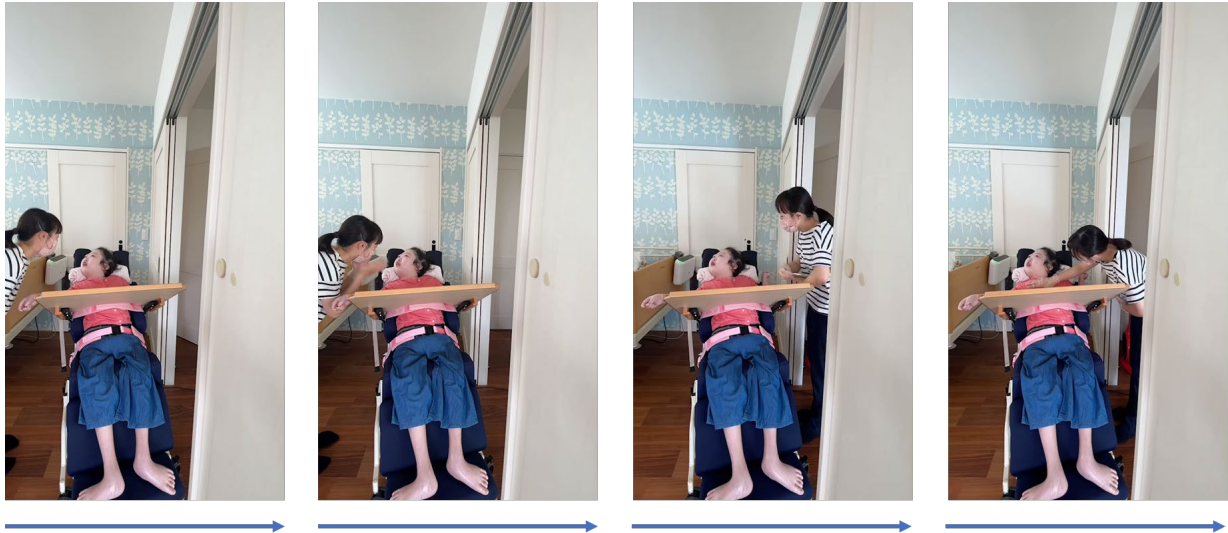


図2 Mさんの左右から接しているときの様子

② ベッドで仰向けで寝ているMさんに、足元・正面・頭の上から関わっているときの様子を撮影した動画の分析

- ・支援者の立つ位置の違いで、Mさんの首の動きや顔の動きに違いが見られる。(一致度4/4)
- ・頭上に教師がいるときにのみ、顔を上にあげるような動きが観察された。

③ 動画の分析を通して得られたその他の気付き

- ・首はいつも右側を向いており、正面を向くことは難しい。
- ・右に向いた状態で、首を左右によく動かしている。
- ・教師が横にいるときには「見ている」足元にいるときは「聞いている」と支援者が感じる。

(4) 考察

- ・座位保持椅子に座っているときにも、ベッドで寝ているときにも、支援者の立ち位置に対して首の動きが変化しているように感じられた。
- ・ベッドで寝ているときには、顔を上にあげる動きが多く見られた。支援者が近くにいるときには、見ようとして首を動かしているような気がする。
- ・支援者が遠くにいるときには、首の動きの変化を感じられにくい、耳を澄ましているのかもしれない。
- ・遊びを組み立てていくときには、姿勢によってどんな動きが出るのかを把握しておく必要があると考える。
- ・動きが出ないときにも、耳を澄まして聴いているのかもしれないという可能性を考えながら、今後も関わっていきたい。

4 活動を組み立てる

Mさんの首の動きを引き出すことができるようなコミュニケーションの設計をしよう

(1) 目的

教師が足や顔に触れたり、楽器を鳴らしたりすると、びくっとすることがあるMさん。これまでの活動から左右にいる教師に対して首の動きに違いがあると支援者が感じており、教師の立ち位置への意味づけを行うことができそうとのことから、「Mさんが次の刺激を予測できるコミュニケーション」を目指しコミュニケーションの設計を行う。

(2) 方法

空間のレイアウトと、関わるための手順を設計する。その際、これまでの観察で得た気づきを盛り込む。

(3) 結果

①車いすでの活動の設計

本児の体に触れるときには、触る場所の近くにゆっくり移動し、声をかけてから触れるようにした。(本児の右側にいて、いろいろな場所に触れていた。) 教材を使って本児の体に刺激を入れるとき、刺激を入れる部位の近くに教師が移動し、声をかけて手で触れてから行うようにした。(本児の正面から体のいろいろな部位に刺激を入れていた。)

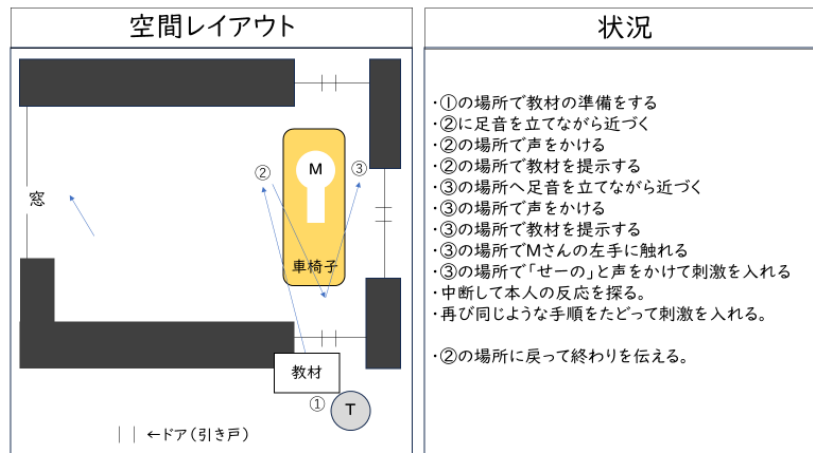


図3 座位保持で座っているとき用の活動

②ベッドでの活動の設計

頭の下に手を入れ、頭上からいろいろな関わりをする(音楽をかける、歌を歌う)ようにした。

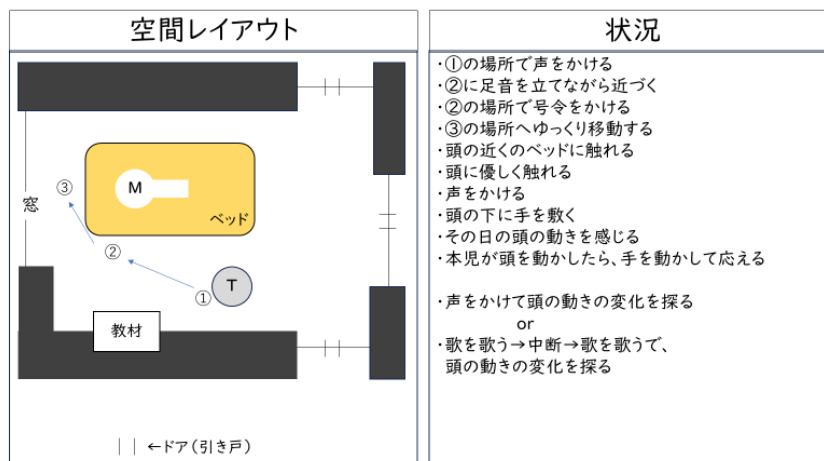


図4 ベッドで寝ているとき用の活動

5 組み立てた活動を試してみる

(1) 座位保持で座っているときの活動【図3】を試してみる



教師が右側に立って右手に触れている様子



教師が左側に立って左手に触れている様子



教師が右側に立って鈴を鳴らしている様子



教師が左側に立って鈴を鳴らしている様子

図5 左右から関わっているときの様子

(2) ベッドで寝ているときの活動【図4】を試してみる



Mさんにいろいろと話しかけている様子



歌を歌っている様子

図6 頭の上から関わっているときの様子

(3) 試してみても気が付いたこと

- ・教師が体に触れたり、楽器を鳴らしたりするときに、びくっとすることが減ってきたように感じる。
- ・「せーの」の言葉かけで笑顔になったり、刺激を穏やかな表情で受け入れたりすることが増えたように感じる。
- ・教師が上に立つと、それまで目を閉じていても、目を開けて教師を見つめる様子が見られることが何度かあった。
- ・「普通に話しかける」より、「教師が歌を歌う+中断」の活動のほうがより首の動きや表情の変化が出ていると感じる。
- ・歌の種類によって、首の動き方や覚醒の度合い、表情や口の動きが違うように感じる。



手遊び歌A



手遊び歌Aの直後



手遊び歌B



手遊び歌Bの直後

図7 手遊び歌A→中断→手遊び歌A 手遊び歌B→中断→手遊び歌B の活動を続けて行った様子

6 頭の下に様々な感触の素材を敷いて遊ぶ

(1) 目的

首を動かすことで、感触や音の違いを楽しむ環境を提案する。

(2) 方法

頭の下に様々な素材を敷く。呼吸が辛くないか、緊張が強くなりすぎていないかに気を付けながら、素材を変えていく。本児の表情や首の動き等を観察して比較する。

(3) 結果

表2 使用した素材

素材の種類		
(綿) 	(ネックピロー) 	(体を洗うスポンジ) 
(ピアノマット) 	(カサカサと音が鳴る布) 	(ランチョンマット) 
(アルミマット) 	(ビーズクッション) 	(カーペット素材) 
(プチプチ) 	(座布団) 	(柔らかい手触りの布) 
(枕) 	(水切りマット) 	(ゲルクッション) 

ビーズクッションは、Mさんの頭にフィットして緊張が強く入らなかったが、その他の物は、緊張が入ってしまった。枕の代わりに直接素材を置くと、頭や首を支えるものがなく、舌が落ちて呼吸がしんどそうになった。枕の上に素材を置くと高さが高くなってしまい首の動きが出ずらかった。



写真2 普段使用している枕



写真3 それぞれの素材を体験



写真4 枕+素材だと動きが出にくい

(4) 考察

首の下が安定していないと、呼吸が苦しくなり、素材を楽しむことが難しいと感じた。

7 呼吸が苦しくならず、頭の下素材を楽しむ環境を作る

(1) 目的

頭や首を支えながらも、頭の高さが高くなりすぎず、首の下が安定するための環境を作る。

(2) 方法

首を支えるための素材を置いてみて、呼吸の様子を観察する。

呼吸が安定していそうであれば、頭の下に素材を敷いてみて、随意的な動きが出るかを観察する。

(3) 結果

ダイソーで購入したスポンジ(のびーるボディウォッシュ)に柔らかい布を巻いたものを首の下に敷くのが良かった。

呼吸も苦しくならず、首も動かすことができていると感じている。

ピアノマットは、音量や音質がちょうど良かったようで、本人の反応も良かった。首の動きは出ていたが、ピアノマットの下にクッションを敷き、頭の高さの微調整をすることで、より本人が楽に首を動かすことができているように感じた。

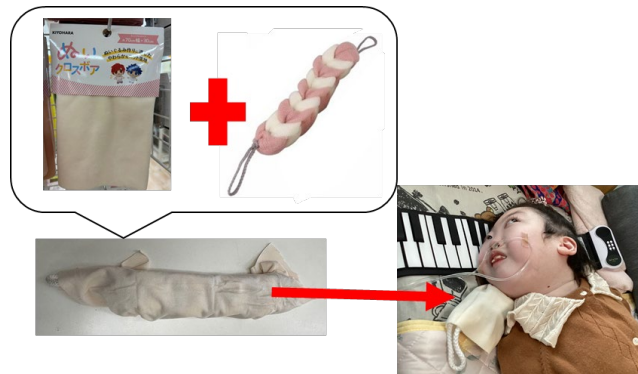


図8 呼吸が安定しかつ頭の下素材を感じることができるための枕

(4) 考察

まだ枕は改善の余地があると思うけれど、いろいろな素材を味わって自分で動く楽しみを感じてほしい。

首を大きく動かすことは難しいが、ピアノマットの活動に落ち着いて参加できるようになってきた。首を上に向けて頭の下を鳴らしたり、首を右に向けて頬で鳴らしたりすることができている。その日の体調や状態・時間によって頭の動きが違うが、連続して演奏し続けることもあった。音が鳴ると、「鳴ったよ。」というように目を丸くしたり、うれしそうな表情になったりすることもある。音への反応や首の動きは緊張の入り方によっても異なる気がする。首周りをしっかりとマッサージしてから、取り組むと良いのではないかと感じている。

8 対象児との関わり方の事後の変化

【実践者の変化】

- ・表情以外の、本人の体の動きを意識して関わるようになった。
- ・Mさんの首の動きを意識を向けるようになった。
- ・関わるときに、立ち位置や距離感を意識するようになった。
- ・遠くから、急に言葉掛けをせずに、顔の近くで目を合わせてから声をかけるようになった。
- ・刺激を入れる前に立ち位置を変えて物音を立てるようになった。
- ・教材の音を立ててから提示するようになった。
- ・頭の上からの関わりを行うことが増えた。
- ・ベッドに仰向け姿勢のときは、最初に首や頭を緩めてから活動を行うようになった。
- ・教材や玩具を提示するときは、いろいろな方法や手順で行うようになった。
- ・Mさんと遊ぶ玩具や教材の幅が広がった。
- ・気付いたことがあったときは、他の先生にも試してもらうようになった。

【実践を通して分かったこと】

- ・教師の立ち位置によって、首の動きに違いがあり、近くにいる人に対して意識を向けていることが分かった。
- ・立ち位置を変えて関わることで、Mさんが活動を予測し、びくっとすることが少なくなることが分かった。
- ・手の動きには、ATNR 反射も含まれるが、随意性のある動きが含まれる可能性もある。
- ・座位保持椅子に座っていても、ベッドで仰向けやうつ伏せに寝ていても、教師が頭の上に立つと、首を上上げる動きが見られた。しかし、座位保持椅子に座っているときは、時間がたつと、姿勢が崩れていくこともあるため、ベッドに仰向け・うつ伏せに寝ているときのほうが、首を上動かすことが多いことが分かった。
- ・Mさんの部屋に入る前に、最初にドアの近くから言葉掛けをするよりも、ドアをノックしたり、玩具の音をたてたりと、物音を聞かせてから部屋に入る方が、驚かないことが分かった。
- ・Mさんが意識を向けやすい教材を見付けることができた。
- ・言葉掛けをするときは、Mさんの顔の目の前に自分の顔を寄せて声をかけると笑顔になることが分かった。
- ・本人の顔の目の前以外で声をかけると、緊張が強くなったり、不快な表情になったりする様子があった。
- ・話しかけるより、歌を歌う活動のときに首の動きや目の動きが出ていることが分かった。
- ・歌の種類によって、中断したときの首や目の動きの違いがあることが分かった。
- ・Mさんの首の動きや目の動きが出やすい曲を見付けることができた。友達や他の教師と関わるときに、その曲を流すと、うれしそうな声を出すこともあった。
- ・ベッドで仰向けで寝ているときは、最初に首や頭のマッサージを最初に行うことで、緊張をゆるめて、頭の上からのかかわりや頭の下に素材を敷いて楽しむ活動に取り組むことができるようになった。
- ・急に頭の上に立つと、何が起こるか不安なのか緊張が入りやすいように感じるようになった。
- ・首の下を支えることで、本児が呼吸が苦しくならず、頭を動かすことができることが分かった。
- ・具体物や、iPad の映像よりも、光に注目しやすいことが分かった。
- ・暗い部屋で光を天井や左右の壁にうつすと、光の動きに合わせて首や視線を動かして追視することができることが分かった。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

活動の設計の違いで、同じものでも楽しめたり、楽しめなかったりするのではないか

・エビデンス

うちわの風で本児の顔を仰ぐと、目を閉じて、そのまましばらく目を開かない様子が見られることがあった。ムーブメントスカーフなどを顔の前で揺らして、少し顔に触れると、そこからしばらく目を開けないという姿も見られていた。うちわの風等の顔に直接入る刺激は好きではないと学級の教師や実践者は感じていた。

しかし、活動を設計してうちわで遊んでみると、笑顔になる様子が見られた。うちわの風を仰ぐのを止めると、目を大きく開けて、教師をじっと見つめる様子も見られた。他の教師にもそのことを伝え、試してもらった。同様に、笑顔になったり、教師をじっと見つめたりして、楽しめたようである。うちわの風が嫌いなのではなく、予測できずに急に仰がれることが嫌だったのではないかと感じている。同じ遊びでも、本人が予測し、期待することができるように活動を設計すれば、楽しい活動になるということがあるのではないかと考えている。

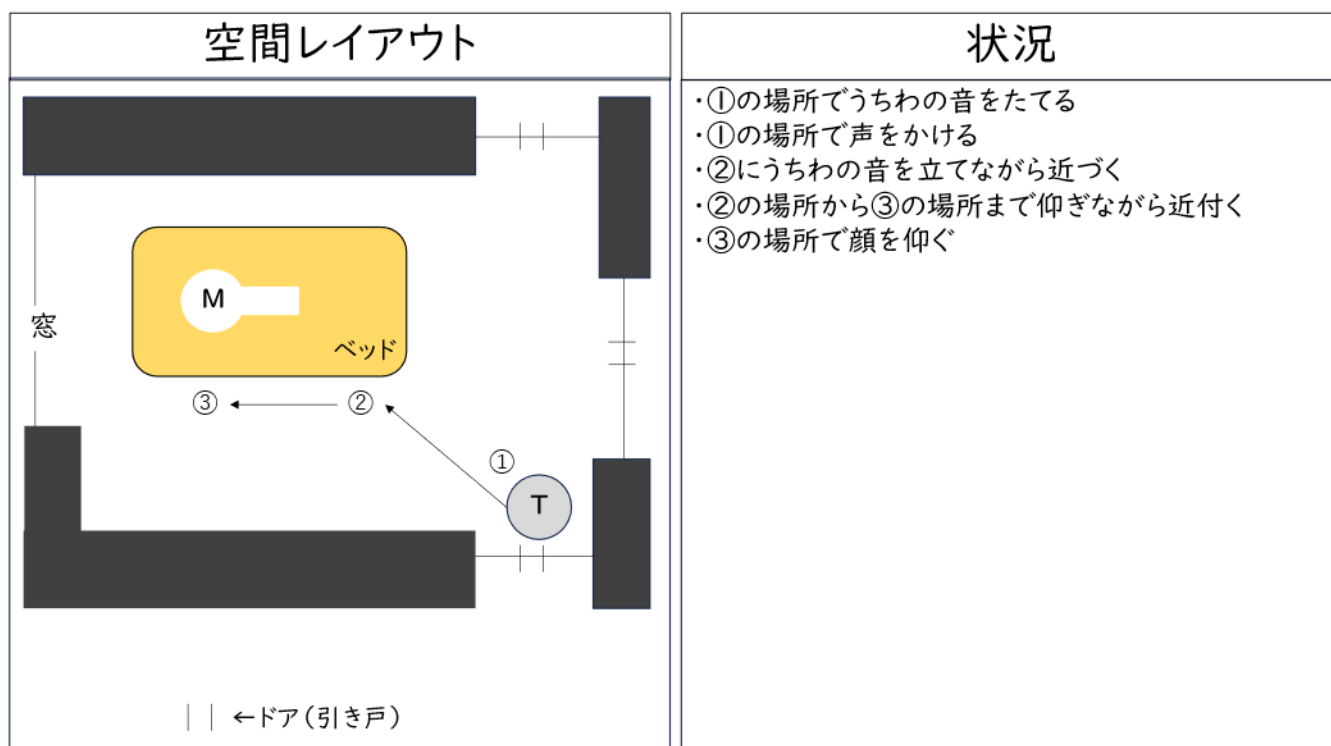


図9 設計した「うちわで遊ぼう」の活動

・その他エピソード

お母さんにも、「声をかけずに顔をのぞきこむ」、「いろいろな場所で声をかける」「体に触れながら声をかける」等のいろいろな関わり方を体験していただいた。普段は、自然にしているやり取りだが、分けて行ってみると、「ただ顔を覗き込むよりも、声をかけたり、首元を触ったりするほうが表情の変化が見られました。」や「足元ではなく顔の目の前で声をかけるのが一番反応いいですね。」という感想をいただくことができた。また、実践者が気付いていない、首元を触るとよいという母のMさんの好きな関わり方についても知ることができた。実際にやり取りを行う中でMさんとのよりよいコミュニケーション方法をみんなで作り上げていきたい。